

因島高校を支援する会

発行 因島高校を支援する会
会長 竹中啓修
事務局: 因島高校PTA
☎08452-4-1281
題字 竹中啓修

オーストラリア高校生来訪

因島高校では、昨年8月17名の生徒が、オーストラリア、ブライビー高校へ、海外語学研修(ホームステイ)しましたが、ブライビー高校では、因島高校生の評判がよく、先方から、交流を深めたいということで、このたび、3名の生徒(ブラッドリー)(ナターシャ)(リギア)と引率教諭1名(シエリル先生)が、因島を訪れました。

3/8(土) 広島空港9...40
着。英語で書いた手作りの横断幕を掲げて出迎え。再会した生徒たちが抱擁して喜び、そしてホストファミリーと対面。ローブウエイドで尾道千光寺へ。その後、瀬戸田にて歓迎昼食会、瀬戸田観光の後、ホストファミリーへ。



因島市長表敬訪問

3/9(日) 各ホストファミリーと自由行動。
3/10(月) 因島市長を表敬訪問。村上和弘市長は、「今年も海外研修の助成を考えていますが、今後も、交流が深まり、市制50周年で記念

就職内定者 ティブルマナー講習会

因島高校PTAは、2月5日12時から、卒業して、社会人となる生徒を対象にナナイク城山において、お祝いを兼ねた「ティブルマナー講習会」を行いました。

この事業は、因島高校が、総合学科となり、多様化するなか、今までのPTAが、就職対象者に対する取り組みが少なかつたことへの反省から、実社会に出てからのマナーの一端を学んでほしいとの思いで企画されたものです。20名の生徒を囲み、校長、担任の先生方、PTA役員

交流深める

統合記念委員会より 300万寄付
「因島高校統合・旧因島高校80周年・旧因島北高校35周年記念」実行委員会より300



お茶会

すべき取り組みになるよう期待したい。」と歓迎のことばがありました。



ました。最後に生徒を代表して、三島浩太君から、卒業後の意気込みと感謝のお礼がありました。

万の寄付をいただきました。在校生に役立つ活動に、市民、中学生に魅力ある高校をめざして、活用したいと考えています。ありがとうございます。

因島高校に登校し、生徒と交流。体育館にてビーチバレー。午後からは、田熊町岡野綾子さん(昨年海外研修参加した岡野真樹さんの祖母)にお茶会に招待される。

PTAが広島、宮方面へバスツアーを企画し、PTA役員、ホストファミリー、生徒希望者が参加。広島原爆慰霊碑を参拝。資料館を見学し、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さがよくわかった。



原爆慰霊碑

昼食は、広島お好み焼き。オーストラリア人には初体験で、大喜び。そのあと、日本三景宮島、鹿をなでて大喜び。



広島お好み焼き



宮島

3/12(水) 土生中学校卒業式に参加。シエリル先生の感想、「厳肅な式と生徒たちの合唱に感動した。」午後は高校でクラブ活動に参加。書道を体験。

3/13(木) 因北小学校と重井中学校訪問。午後6時から大浜公民館で、「さよならパーティー」昼過ぎから、ホストファミリーや、生徒たち、PTA役員らが、準備した。会の始まりは、日豪餅つき。自分でついで餡を入れた餅はこのほかおいしい。



餅つき

二ツボンのお母さん方の手作りの料理に舌鼓を打ちながら、名残を惜しみました。生徒は、着物を着せてもらって大喜び。入れ替わりみんなど記念撮影。



さよならパーティ

盛り上がったところで、お待ちかね因島水軍太鼓、生徒たちは太鼓に合わせて跳楽舞を踊った。桶東校長も袴姿で

因島高校の発展を祈念して



因島高校校長 桶東愛生

私が因島高校に在任したのは、平成11年4月から4年間であり、今年の3月末日を以て定年退職いたします。着任当時、広島県は文部省は正指導を受けながら、一方では教育改革を推進しなければならぬという激動の時期

でありました。本校は、平成11年度から「新しい因島高校」として出発したものの、平成14年3月までの3年間は、実態として全日制課程の土生校舎と重井校舎、定時制課程という「3つの学校」がありました。3つの学校を掛け持ちした上に、学校統合、校舎移転、校舎建設という本校独自の課題がありましたので、私は「広島県でもっとも忙しい校長」を自認しております。そんな時期の平成12年11

月、本校の活性化を図るため、本校同窓会やPTA、因島市P連をはじめ多くの市民の皆様が結集されて「因島高校を支援する会」を設立していただきました。この「支援する会」による物心両面のご協力により、「サテライン学習」「オーストラリア語学研修」「特別進学クラス」の設置等を実現していくことができました。これひとえに、支援する会をはじめ、多く市民の皆さんのおかげであると感謝しております。本校の発展を祈念して退任の辞といたします。

PTA学校開放講座 「家庭生活における介護の勉強会」開催

3月17日(月)午後2時から因島高校4階「介護教室」において、PTA学校開放講座「家庭生活における介護の勉強会」がおこなわれ、市民やPTA会員21名が参加。自分で健康に気をつけ、介護生活が楽しくなるように介護の仕方のポイントを勉強しました。

講師には、NPO法人「遊喜の会」代表 村田理恵さんをお願いしました。村田理恵さんは、因島市重井町在住で、ホームヘルパー、ケアマネージャーなど社会福祉に長く従事され、昨年、因島で初めてのNPO法人「遊喜の会」を発足させ、高齢者生活支援など、社会福祉に携わっています。



「陶芸教室」(昨年11月、本年1月実施)が行われ、「介護

因島高校「体験記録集」発行

進学、就職の合格体験記(15年度5名)(14年度6名)、オーストラリアでのホームステイ海外研修の報告(生徒の体験記17名)(引率冠教諭報告)、江田島青年の家における外国人との交流会に参加した体験(2名)が、のせられており、生徒たちのがんばる姿、能動的に取り組んできた姿がうかがえます。

ホストファミリーを終えて

山田 勉

昨年娘が短期のホームステイで、お世話になった学校の生徒を受け入れることになり、言葉と生活習慣の違いの中、因島を好きになってもらえるようにと家族が色々準備しました。

広島空港で、不安と緊張で迎えたが、私たちのその気持ちはずくに彼女の明るく人なつこい性格によってほぐれました。名前はリリア、14歳の好奇心の強い女の子で、日本の生活習慣をよく勉強していました。また日本の食事をほとんど美味しくと言って食べてくれました。

寒い日が続きました。寒く、元気でいろいろな行事を楽しんでいたようです。私たち夫婦は、ジェスチャーと電子辞書を引きながらの毎日でした。娘の一人が、一年間の米留学で日常会話話せたので、通訳してくれて助かりました。折り紙、暮ならべ、坊主めくり、

トランプ等、日本の遊びにもすぐに慣れました。

1週間はすぐに過ぎ、彼女から「まだ帰りたいくない」と言われたときは、本当に嬉しく思いました。空港でのお互いの涙も、忘れることが出来ません。帰宅してみると、部屋には、折鶴と「みなさんありがとう」と。日本語が話せるようになってまた遊びに来ます。「この手紙でも彼女のやさしい気持ちを強く感じました。また逢える日を想いつつ、ホストファミリーの機会を与えていただきました皆様に深く感謝し、因島と豪州の交流が続きますように、お願い申し上げます。



ホストファミリーご苦労さまでした。

「ミニドリー」のホストファミリーになって

2年 箱崎 友香

私は去年の夏、ホームステイに行った時にとてもいい思い出ができたので、今回私と同じような思い出を作ってもらいたいと思って、ブラッドリーとはオーストラリアで一度は会って、とても

おもしろい子だと知っていたので、楽しく過ごしました。

でも、ブラッドリーは日本語をまったく話せなくて、家族の中でも少し話せるのは私だけ。少し話せても話せないに等しく、言っていることがわかって、自分の言いたいことを英語にするのに時間がかかり、会話もなかなかできず、今考えると、ブラッドリーのホームステイを簡単に考えすぎていたと思います。

でもお互いだんだん慣れてきて自分から話ができるようになって、会話もできるようになって、気持ちも通じ合う



ホームステイホストを体験して

岡野 長寿

4人のオーストラリア人が因島にやってきた。3人が生徒、先生が一人。我が家には先生がやって来た。名前はMsシエリル(女性)。私と同年代、4人の子ともがいるそうだ。プライベートは因島とよく似ているが山がなくフラットなところなど話してくれた。初日土曜日は尾道千光寺、瀬戸田の耕三寺めぐり。日曜は因島公園や水軍城を案内したあと、福山でショッピング。シエリルの娘はキティちゃんが好きだとおみやげにキティちゃんグッズをくれた。買ったまま置いていた。私が「You did a good job」と言ったら「Yes」と笑顔。娘を想う母親の顔になった。

居酒屋で食事。からあげ、すしはもちろんだ、オコゼの吸い物、豚骨ラーメン、ピーマンの肉詰めにも興味を示した。ビールもはかどる。シエリルは、「山あり谷あり」のアップダウンの地形に足をさすりさすりちよつとお疲れの様子。別れの日がやってきた。1

ようになりました。慣れ始めたら時間がたつのは早くあつたという間にさよなら会。次の日の朝、空港まで送りにいきました。ブラッドリーも「ここにいたい」と言っし、私たち家族も帰ってほしくなかつたけど、「来年もまた来る。」と言って飛行機に乗りました。

私たち家族がブラッドリーに何をあげたかはわかりませんが、私たちに素晴らしい家族ができたと思っしています。きっとブラッドリーも同じ思いで帰っていったと思います。



ナターシャありがとう

1年 若本 名典

母からオーストラリアの女の子が来ると聞かされたとき、英語が大の苦手な私にとって外国人を受け入れることは考えられず、最初は嫌でした。しかし、初めてナターシャに会ったとき私は衝撃を受けました。脚が長く色の白いいかに外国人という感じ。テストのリスニングを聞いていたような英語話など、正直かっこいいと思いました。そして、いざ挨拶しようにも「ハロー」としか言えない自分がとても恥ずかしくなりました。

その日から心を入れ替えて、ナターシャに少しでも自分の思っていることが伝えられるように、辞書を使って下手でも英語を話せるようになりました。と思ったのは生まれて初めて、自分でも驚きました。ナターシャも始めは緊張のせいかあまり話さなかつたけど、お互いの距離が縮まってくるとつれて会話をしてくれるよ

つた。平和な世界を切に祈りながら。



PTA・生徒会の初めての懇談会を行う

2月14日、午後3時より、因島高校PTA役員と、因島高校生徒会役員との懇談会が行われました。

PTAでは、生徒たちの要望や考えを聞き、よりよい学校を目指したいということから、生徒会からの要望も聞き、靴の盗難防止、トイレで喫煙については、生徒たちが自分たちの恥になるような行動は、お互いに注意できる体制を考え、なくすように心がけたいとの提案がありました。PTAは、学校に校歌の指



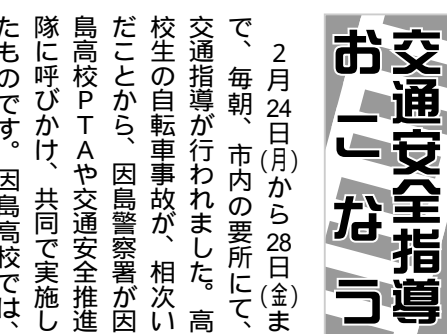
フレックスマップ委員会 4回開催される

市民の投書箱

因島市教育委員会では、平成14年度から、学校教育の問題を多面的に把握し、学校、家庭、地域、行政が一体となつて、地域ぐるみで教育を推進していくという趣旨で、市内の学校、保護者、地域の代表など、関係者が集まって協議しています。

広島県教育委員会に要望

2月13日(木)、支援する会、同窓会、PTAは、広島県教育委員会をたずねました。島にひとつの高校をもちたてるために、努力していることなど、因島高校の実情を説明し、今後の因島高校の発展のために、要望を申し入れました。



交通安全指導

2月24日(月)から28日(金)まで、毎朝、市内の要所にて、交通指導が行われました。高校生の自転車事故が、相次いでいることから、因島警察署が因島高校PTAや交通安全推進隊に呼びかけ、共同で実施したものです。因島高校では、以前から、高校生の自転車通学者の安全確保に頭を悩ませておりました。

交差点で交通指導を行った保護者は、「子供たちは赤信号を平気で進むもの、2列、3列で進むものがほとんどで、危ないと感じた。しかし毎日指導していると、正しく直ってきた。」と、効果があったことを喜んでいました。学校とPTAでは今後も継続して指導していきます。

オーストラリアから生徒達が来た。去年行った因島の子どもの印象がよかつたらしい。因島での歓迎振りに感謝してくれ

私の娘は、テストの点が足りないため、赤点をとり、進級のため、がんばっております。そのことで、お願いがあります。教科書の00ページから00ページを写して来い、という課題です。これでは、ためになりません。少しでも、補習をして、その範囲で追試をしてほしいです。そつすれば、わかる喜びも味わえるでしょうし、勉強意欲につながるかもしれません。お手数ですが、お願いいたします。(母親のひとり)

卒業式に出ました。国歌君が代は、なかなか歌わないとは聞いていましたが、校歌もあまり歌ってないよう思いました。自信をもって、自分の学校の校歌が歌えるようになってほしいと思います。学校に対して、愛情も湧いてくると思います。(卒業生の保護者)

誘われて、「介護教室」に参加しました。初めて高校に行きましたが、立派なのにびっくりしました。高校生の使われない時間を使わせていただいた校長先生に感謝します。今までは、ヘルパーの資格をとろうと思つたら、本土まで通わないといけないかつたのですが、時間もお金もかかるし、行きたくてもあきらめていた人も多いようです。是非、高校を使って、社会人向けのヘルパー養成講座を開いていただけたら、行きたいと思う人もたくさんいると思います。

空港では、涙の別れがあった言葉が通じなくても、心は通じる、というが、その通りだお世話をして、いろいろ教えられた。ためになった、と感想があったが、この交流が、大きく育つことを祈りたい。